

# ホクギンレポート

## 全国での産業構造の変化と 新潟県経済の現状および課題

### 要 旨

1. 事業所数や生産額の推移をみると、昭和40年代後半から50年代前半にかけて、第2次産業と第3次産業の構成比増減に逆転現象が起きており、この時期から経済のサービス化が本格化してきたものと推測される。さらに、平成になると産業空洞化や景気低迷などから、第2次産業と第3次産業の構成比増減の乖離幅は急速に広がっており、経済のサービス化が加速している。
2. 産業構造の変化を地域別にみると、第2次産業と第3次産業の構成比増減の乖離幅は、大都市圏やその周辺地域では拡大しているものの、北海道、東北、九州など大都市からの遠隔地域では、相対的に小さく、産業構成の変化のスピードに地域差がでている様子がみられる。
3. 生産面から地域の産業構成をみると、第1次産業ウエートの高い県は建設業のウエートも高い傾向が強く、また都道府県の産業構造をその中心産業をもとに分類すると、商業、製造業、建設業という風に同心円状に広がりが見られており、産業構造における地域特性があらわれた。
4. 新潟県は、建設業中心の経済構造から抜け出せず、製造業内での構造変化も進んでいないことなどから、経済の低迷を余儀なくされている状況にある。また、開業率が全国に比べ低いことが、事業所数減少のスピードを加速させる原因ともなっている。これからは、地域中心産業の状況や開業率の高低などによる地域格差を是正しつつ、地域の経済構造に即した経済政策が望まれる。

### 構 成

#### 1. 全国的にみた産業構造の変化と特徴

はじめに

事業所数からみた産業構造の変化と特徴

総生産からみた産業構造の変化と特徴

産業連関からみた産業特性と地域特性

〈コラム〉宮城県にみる仙台市の政令指定都市昇格の影響

ペティ=クラークの法則と所得効果

#### 2. 新潟県経済の特徴と地域別にみた産業構造の現状および課題

事業所数と総生産からみた新潟県の産業構造

事業所数からみた地域別の産業構造

地域特性・事情を踏まえた経済政策の必要性